様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３５３１０
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５３０５２８

研究課題名（和文）精神性（ＭＳＲ）研究を学ぶキャリア教育用テキストと絵本の開発

研究課題名（英文）Development of the text book and picture book for career education to learn a MSR study.

研究代表者
神戸　康弘（kanbe, yasuhiro）

山陽学園大学・総合人間学部・講師

研究者番号：５０３５３１０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、欧米の精神性(MSR)研究を学ぶ新しいタイプのキャリア教育用テキストブックの開発を行うことを目的としている。欧米のMSR研究の取材後、「意味のマップ(Map of meaning)」研究に着目し、日本で２つの実証研究を行った。１つは死生学ゼミ卒業生を対象に、「生きる意味」が満たされる職場とそうでない職場の違いについて調査した。2つ目は、ウーマンオブザイヤー受賞者を対象に、「個人の意味」が「社会の意味」になるメカニズムについて調査した。これらの研究成果は、従来の日本のキャリア教育にはない発想を含んでおり、キャリア教育用テキストブックと絵本として出版予定である。

研究成果の概要（英文）：This study is intended to develop the textbook for a new type of career educations to learn a European and American MSR study.After the coverage of the European and American MSR study, I paid my attention to "Map of meaning" study and performed two empirical researches in Japan.One investigated the difference between the workplace filled with “meaning of life” and not filled with “meaning of life” for the graduates who belonged to thanatology seminar.The second investigated the mechanism that “a personal meaning" became “the social meaning" for “Woman of the Year prize winners”.These results of researches include new ideas that conventional Japanese career education doesn't have , and it's expected to publish as textbooks and a picture book for career education in Japan.

研究分野：経営学（キャリア研究）

キーワード：経営学　経営管理論　キャリア研究　キャリアの社会的影響　精神性研究　キャリア教育

１．研究開始当初の背景

背景にあるのは欧米の精神性（MSR）研究である。MSR とは Management, Spirituality and Religion の略であり、仕事と精神(spirit/spirituality)との関係に着目する学問である。Academy of Management(AOM)のスポンサー（部会）の一つ。WHO（世界保健機構）は「健康の定義」を従来の３領域から今後は「①身体的、②心理的、③社会的、かつ④スピリチュアル（Spiritual）に幸せな状態」への変更を検討すると発表した。キャリアの精神性研究は、キャリア学においてこの４つ目のニーズ、つまり人が持つ「スピリチュアルなニーズ」に着目する学問である。スピリチュアルニーズとは藤井・藤井(2009)によると人が死など存在危機に直面した時に現れる問いであり「私の人生に意味があったか」といった人間存在に関わる根源的な問いである。ロビンス(2009)は精神性の定義として「それは組織化された宗教的慣習でも、神や神学に関係することでもない。職場の精神性とは、人間には「内面生活」(inner life)があることを認識する概念であり、そうした内面生活は、共同社会において有意義な仕事をすることにより充実させることが出来る。精神文化を奨励する組織は、人間は自分の仕事に意義や目的を見出そうとすること、他者と関わり共同社会の一員でありたいと望んでいることを認識している」と述べている。欧米の MSR 研究者へのエリートインタビュー（専門家インタビュー）のため 2010 年の AOM（8 月、カナダ）に参加し、MSR 部会運営委員の Keiko Krahnke 先生に、欧米の MSR 研究について直接お話を伺う機会を持った。欧米の MSR 研究について以下のように言われた。「欠点の矯正ではなく、強みを生かす方向に変わっている。誰もが生きる意味を持っている」「自分でキャリアを捜すのではなく、エゴを捨てたら、パーフェクトキャリアがあなたを見つける。社会からのメッセージを読み解く能力必要」「経済人モデルから共感人モデルへ。相手の痛みがわかる能力重要」「プロボノなどボランティア流行っている。仕事にお金だけ求めているわけではない良い証拠」。また全米キャリア・ディベロプメント協会（NCDA）の会長経験者リー・リッチモンド教授（例えば、Bloch and Richmond,1997 など)が、来日したとき次のように言われた:「今後キャリア研究で重要となる２つのフロンティアがある。１つは、①社会構築主義からキャリアを捉えることと、もう１つは、②キャリア研究にスピリチュアリティという軸を打ち立てること、である」（神戸大学 金井壽宏教授 パーソナルコミュニケーション）。よって本研究では「キャリアの軸(career axis)」「精神性の軸(axis of spirit)」を「自分の生きる意味を発見したような瞬間から構築される精神的支柱」と定義する。キャリアの中で精神性の軸を築くために必要な能力を「精神性基礎力」と名付ける。精神性基礎力の特定とテキスト作成により非エリート層の社会参加が可能となるのではないか。

２．研究の目的

本研究は、欧米の精神性(MSR)研究を土台にしながら、精神性基礎力の特定と、精神性を学ぶ新しいタイプのキャリア教育用テキストブックの開発を行うことを目的としている。現在の日本におけるキャリア教育の象徴は経済産業省が開発した「社会人基礎力」であろう。仕事に必要な能力を“見える化”した点で評価できるが、反面、能力のない人を社会から遮断する「選別志向」という問題もある。社会は一部のエリートだけで成り立つわけでなく、この基準から「抜け落ちた人」の戦力化は、もう一つの重要な側面であろう。そこで本研究は、選別から抜け落ちた人＝非エリート層を、新たな社会を作る大事な戦力として位置づけ、社会参加させる方法について研究する。

(1)何をどこまで明らかにするか（当初の構想）

エリート層、非エリート層へのインタビュー調査を行う。「自分はこのために生まれてきたのかなと思ったことはありますか？」などの質問で、「精神性の軸」のタイプや形成の有無を調査する。TEM（複線径路・等至性モデル）などを使い、軸が形成されている人の必須通過点、形成されていない人の必須通過点の違いなどを分析する。以上から「精神性基礎力」の候補を絞り込む（仮の精神性基礎力）。 インタビュー調査から質問紙を作り、質問紙調査を行う。定性、定量の両面の調査から「精神性基礎力」の完成。テキストと絵本のテスト版作成。テスト版を実際のキャリア教育に試してみる。精神性を学ぶテキスト、絵本の最終版完成。出版。

(2)本研究の特色・独創的な点、予想される結果・意義（当初の構想）

①予想される結果・意義

エリート層・非エリート層でなく、全員が有意義な仕事に従事できるようになる（意義による再編）。欠点矯正ではなく、強みを生かす、非エリート層も強みがあるという認識へ転換（強みによる再編）。一定の能力や適性診断でなく、過去を読み解くことでその人固有の能力を発見するようなキャリアカウンセリングへの転換。精神性基礎力という概念の普及。「生きる意味の発見」を目的とするキャリア教育への転換。精神性を学ぶテキストや絵本の出版により、意味のあるキャリアを歩む人の増加。非エリート層の社会参加（意義ある仕事への従事）の増大。

②本研究の特色・独創的な点

「キャリアの軸」「精神性の軸」という概念はキャリア研究ではおそらく初めてであろう。「精神性基礎力」概念とそのためのテキスト、絵本の開発はキャリア研究で初めてであろう。非エリート層の支援ではなく社会参加、戦力化の研究はおそらく初めてであろう。MSR 研究を取り入れ、欧米の MSR 研究者に実際に研究に加わってもらった形でのキャリア研究は日本ではおそらく初めてであろう。企業にも問題があり、変革の必要性を意識した、社会や企業を変えるためのキャリア教育はおそらく初めてであろう。瞑想、禅、ブッディズムなどの東洋思想をキャリア論に取り込むのはおそらく初めてであろう。

３．研究の方法

調査は３つの段階を計画して行った。第一段階では、まず AOM の MSR 部会を取材し、MSR の研究者たちがキャリアに関しどのような見解を持っているのかを取材した。運営委員の Keiko Krahnke 先生を中心に、2010 年、2011 年の AOM で MSR 部会の研究会に参加し、様々な研究発表を見ると共に、研究者達に取材を行い、彼らの考え方に関する調査を行った。

第二段階では、その AOM 調査を踏まえ、どのような調査を日本で行うべきかを検討し、日本で調査を行った。まず AOM での調査から、研究目的の１つである「誰もが生きる意味を感じながら仕事ができるようになるためには何が必要か」を中心に研究を進める、という方向付けを行った。その中で着目したのが Lips-Wiersma(2002)の「意味のマップ」研究であった。意味のマップは生きる意味、つまりスピリチュアルなニーズを満たすためには、キャリアにおいて何が必要なのかを明らかにした研究であり、４つの要素があることを明らかにした。それはいわば、給与や出世といった外から見える価値（外面マップ）ではなく、普段見えない内面の中で起こっていることを見える化しようとする「内面マップ」の見える化を意図していた。この内面マップを上司と共に見ることで自分がなぜ仕事から生きる意味を見出せないのかを上司と共に見ることができ、仕事のやり方、取り組み方を変えてあげることで、誰もが意味のある仕事を体験できることを意図して作られたマップであった。このマップは誰もが社会人基礎力など能力などに惑わされず、意味のある仕事を体験できるツールとして優れていると考え、このマップを使って日本で調査を行うことを決定した。このマップを使って日本で２つの調査を行った。

第１調査では、生きる意味、スピリチュアルなニーズに特に自覚的な人のキャリアを分析することで、生きる意味の満たされる職場とはどのような職場かを明らかにすることにした。生きる意味の満たされる職場と満たされない職場との違いはどこにあるのかを、意味のマップを使って分析することで、誰もが生きる意味を感じながら働ける環境について調査を行うことにした。生きる意味、スピリチュアルなニーズに自覚的な人の代表例として、日本で死生学やスピリチュアルなニーズ、スピリチュアルな痛み（ペイン）について研究している大学の研究者に協力を頂き、そのゼミで学んだ学生が卒業後、どのようなキャリアを歩んだのかをインタビュー調査で明らかにすることにした。生きる意味、スピリチュアルなニーズに自覚的になった人が、会社に入り、どのような点で矛盾を感じるのか、どのような葛藤を抱えるのか、あるいはどのような場面でスピリチュアルなニーズが満たされると感じるのかを、意味のマップを使って分析することで、マップ上の“どこで”意味や問題が発生しているのかを突き止めようと考えた。なぜならそれを明らかにすることで、能力に関係なく、誰もが意味のあるキャリアを歩める環境が明らかになると考えたためである。

第２調査では、生きる意味が満たされることと、業績との関係を明らかにする必要があると考え調査を行った。生きる意味が職場で満たされることが、本人にとって意味があるだけでなく、企業にとっても、社会にとっても意味のあることでなければ、自己満足で終わってしまうだろう。つまり、社会人基礎力などの能力ではなく、生きる意味を仕事の中で満たそうと葛藤するなかで、やがて社会にとっても意味のある仕事ができるようになるためには、どのような要因が必要なのかを分析することにした。なぜなら生きる意味が満たされる一番重要な要素は、他者の意味、他者の満足であり、自己の生きる意味が満たされるキャリアの形成過程の分析は、同時に社会にとっても意味のあるキャリアの形成過程を明らかにすることでもあるためである。社会にとって意味のある仕事をした人の代表例として、キャリアの業績が認められ、毎年表彰されているウーマンオブザイヤー受賞者を対象にインタビュー調査を行うことにした。受賞者のキャリアを意味のマップという内面マップを使って分析し、彼女たちの生きる意味、スピリチュアルなニーズがどのように満たされ、優れた業績につながったのかを分析することで、生きる意味と優れたキャリア上の業績との関係を明らかにすることができると考えたためである。

第三段階では、以上の調査を踏まえ、その研究成果をどのようなテキストブック、および感覚的な理解が可能な絵本にまとめるべきかについて考察を行った。

４．研究成果

まず第一段階である、AOM の取材を基に

した欧米の MSR 研究の調査からは、多くのことがわかった。例えば、キャリアの目的（ゴール）は、whole person になること、つまり自分の完全化、完全な自分になるための一つとしてキャリア（仕事人生）があるという認識や、あるいはキャリアのゴールは自己発見(self discovery)であるという認識に触れることができ、キャリアの目的やゴールとは何かについて議論すらなく、社会人基礎力をつけて就職を目指そうという日本のキャリア教育とはかなり異なる、より深い内容であることがわかった。また MSR におけるキャリア研究の最大のテーマが、自己超越、つまり自分さえよければいいというエゴ(ego 自我)をいかに超越するかということであり、この点も日本のキャリア教育との違いを学ぶことができた。これらは精神性を学ぶキャリアのテキストに不可欠の内容であろう。

また第二段階の日本における実証研究からは以下のような成果があった。まず第１調査では、死生学や生きる意味、スピリチュアルなニーズやスピリチュアルな痛み（ペイン）について研究し学ぶゼミに所属していた卒業生 14 名にインタビュー調査を行い、卒業後のキャリアを意味のマップを使って分析することで、意味のマップという内面マップ上でどのようなことが起こっていたのかを明らかにした。その結果、生きる意味を満たす職場と満たされない職場の違い、つまり第四の健康要素と言われるスピリチュアルなニーズを満たす職場と満たさない職場の違いについて、明らかにすることができた。例えば、死生学ゼミ卒業生はキャリアの意味として「他者の生きる意味になる」という価値観が形成される。そのような生き方がもっとも尊い生き方と教わる。そのため「他者の生きる意味になれているか」はキャリアを貫く精神性の軸として機能し、常に生きる意味を満たす職場かそうでないかを判断する価値観として使用される。これは死生学ゼミを卒業した特殊な例ではなく、誰もが持っている心の奥底にあるスピリチュアルなニーズと考えれば、多くの人にとって一般化可能な示唆のある研究成果と言えるのではないか。もちろん、今回の調査人数は 14 名であり、全員が卒業後 10 年未満の若い社会人であるなど、全て一般化できるものではないが、このような調査を続けていくことで、生きる意味を満たす職場と満たさない職場の相違がより明確になっていくであろう。今回の調査はその出発点となる研究としては意義があるであろう。

第２調査では、ウーマンオブザイヤー受賞者 14 名を対象に、キャリアの意味と顕著な業績との関係を探るため、受賞者のキャリアを意味のマップという内面マップで分析を行った。その結果、自分にとって意味のあることをしていくうちに、やがて社会にとっても意味のあることになっていく過程を明らかにすることができた。ヒット商品の開発者などにインタビュー調査することで、なぜ多くの人にとって意味のあるような商品を開発することができたのか、自分の意味から社会の意味になっていくメカニズムについて、意味のマップを使って明らかにした。例えば、意味のマップは、自己志向と他者志向という軸がある。またもう一つの軸は、行動と思考（あり方）という軸である。つまりはじめは自己志向的に行動し何らかの能力（スキル）を身につけた者が、自己のあり方について考える中で、徐々に他者志向的に行動できるようになる過程などが明らかにできた。もちろんこれらは 14 名の事例であり、調査対象者は全員女性であるなど全て一般化できるものではないが、このような調査を続けていくことで、個人の生きる意味を満たすキャリア、個人がスピリチュアルなニーズを満たすことと顕著な業績との関係がより明確になり、個人にとっても社会にとっても意味のあるキャリアが形成される方法を探る研究として、今回の調査はその出発点となる研究としては意義があるであろう。

第三段階では、このような研究成果をどのようにまとめ、精神性を学ぶテキスト、および絵本にするのかについて考察を行った。その結果、以下のような成果物としてまとめることになった。まずテキストブックは 3 冊出版予定である。１冊目は、ウーマンオブザイヤー受賞者を例にした研究成果をまとめたものであり『意味マップのキャリア分析～「個人の意味」が「社会の意味」になるメカニズム（仮称）』として出版予定である（原稿提出済み、2015 年 11 月頃出版予定）。２冊目は、死生学ゼミ卒業生を例にした研究成果をまとめたものであり、『意味マップのキャリア分析～死生学ゼミ卒業生にとっての働く意味とは（仮称）』として出版予定である。3 冊目は、これらの研究成果からエッセンスを抜き出し、よりテキストブックに近い形式で『キャリアの“目的（ゴール）”とは何か～欧米の精神性研究を学ぶためのキャリア教育用テキストブック（仮称）』などのタイトルで出版予定である。またキャリア教育用の絵本としては、海外共同研究者で MSR 部会運営委員経験者の Keiko Krahnke 先生にストーリーをお願いし、画家の魚谷洋氏がその世界観を絵にするという構想で、出版社も決まり、出版予定である。

〈引用文献〉

①Bloch, D.P. and Richmond,L.J.(1997), *Connections Between Spirit and Work in Career Development: New Approaches and Practical Perspectives*, Consulting Psychologists Pr.
②藤井理恵・藤井美和(2009),『たましいのケア』いのちのことば社。
③Lips-Wiersma,M.S.(2002),“The Influence of Spiritual ‘Meaning-Making’ on Career Behaviour”,

Journal of Management Development, 21(7),497-520.
④Robbins,S.P.(2009), *Essentials of Organizational Behavior* ,Pearson Education（高木晴夫（訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社,2009 年)。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　０　件）

〔学会発表〕（計　４　件）
①　欧米における仕事の精神性(MSR)研究の現状と課題～優れたキャリア形成に必要な「キャリア精神（キャリアシップ)」概念の探求を目指して、 単独、2010 年 10 月、日本キャリアデザイン学会全国大会、於：神戸学院大学
②　欧米の精神性(MSR)研究に基づく「キャリア精神（キャリアシップ)」の探求～TEM による死生学ゼミ卒業生のキャリアストーリー分析を中心として～、単独、2011 年 10 月、日本キャリアデザイン学会全国大会、於：日本大学
③　キャリア行動における「意味の生成」理論の探求～社会変革・社会貢献を実現するキャリアの形成過程～、単独、2013 年 10 月、日本キャリアデザイン学会全国大会、於：武蔵野大学
④　キャリア行動における社会変革・社会貢献実現力とは～「意味の生成マップ」研究を中心として～、単独、2013 年 11 月　日本キャリアデザイン学会関西支部、於：関西大学

〔図書〕（計　０　件）
※前述の通り、今後、図書 3 冊、絵本 1 冊出版予定。出版社も決定済み。

６．研究組織
(1)研究代表者
神戸康弘（KANBE,Yasuhiro）
山陽学園大学・総合人間学部生活心理学科・講師
研究者番号：50353107
(2)と（3)、研究分担者、連携研究者はなし。

(4)研究協力者
①Keiko Krahnke（　　）
米国北コロラド州立大学・准教授
②Isaac Wanasika（　　）
米国北コロラド州立大学・准教授
③Marjolein　Lips-Wiersma(　　)
New Zealand、Canterbury 大学准教授
④金井壽宏（KANAI,Tosihiro）
神戸大学大学院経営学研究科・教授
⑤藤井美和（FUJII,Miwa）
関西学院大学・教授